



IMCE

九州大学 先導物質化学研究所 客員教授講演会

平成24年9月25日(火) 15:00~16:30
箱崎・先導研会議室 (旧工学部3号館114室)

タンパク質機能につながる 反応を理解する:「揺らぎ」

寺嶋 正秀 教授

京都大学大学院理学研究科



生体分子が機能を発揮するにはその立体構造が重要であり、X線結晶構造測定などが国家プロジェクトとして動いている。しかし近年、天然状態で決まった構造を持たないいわゆる天然変性タンパク質が数多く発見されたり、いわゆる「鍵と鍵穴」の関係つまりその静的な構造だけでは説明できない生体反応も多くみられるようになり、構造変化と機能との関係が注目されている。我々は、こうした生体分子の反応を理解するキーポイントは、「揺らぎ」にあると考え、それを実験的に検証する研究を行っている。ここでは、如何にして通常的手法では検出できない生体分子の動きを時間分解で検出するか、揺らぎがどのように関わっているのかなど、最近の研究成果を紹介する。

問い合わせ先: 九州大学先導物質化学研究所(箱崎)
岡本 晃一 092-642-2724,
okamoto@ms.ifoc.kyushu-u.ac.jp